

1. 活動報告（事務局 記）

- 9月26日（土）10名の会員が参加し、須賀河内川の丸太橋に用いる材木の搬入、水車部の水位嵩上げを目的とした堰整備の作業を実施しました。作業前には、更新パンフレットの構成、稲刈りの日程の事項を協議しました。
- 10月4日（日）会員13名が参加し、田圃・水路・観察路・東屋周辺の草刈り、稲刈り準備（はぜかけに用いる竹の準備）、看板の塗りなおし、水車回りに排水溝の掘削、展示用コンパネの設置（20周年記念行事用）の作業を実施しました。休憩時間には、記念行事公募について協議しました。
- 10月10日（土）天気にも恵まれ、無事に稲刈りを終わりました。刈った稲を束にして、ハゼ掛けをし、子供たちに刈未で代わりのお菓子を渡して、楽しく帰って頂きました。今年は、手際も良くて割と早く終わることが出来ました。ご苦労様でした。参加者は、親子自然観察隊（子11名、親11名）、二俣瀬子ども会（子12名、親9名）、二俣瀬小学校（校長、教頭）、市民センター3名、会員20名の計68名でした。
- 10月16日（金）好天が続き、ハゼ掛けの稲を会員9名で脱穀しました。合わせてハゼかけに使用した冠竹・足の竹を所定の位置に保存しました。また電気柵の送電設備・線・支柱も合わせて保管しました。里山の暮らして使用する穂付きの稲束は東屋の西側屋根下でハゼかけを継続しています。
- 10月17日（土）午後西村会員方にて、臼ひきを行い玄米149kg収穫が有りました。9月に入りイナゴ・ウンカ被害に遭い、ビオトープ稲作において一番か2番目に悪い不作でした。従って、ことしは会員の販売は出来なくなりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事屋根①

- 11月1日（日）維持活動（草刈り、駐車場草刈り）
- 11月14日（土）維持活動（エコアップ）
- 11月27日（金）イベント前日準備
- 11月28日（土）創立20周年記念イベント（親子自然観察隊・二俣瀬小学校招聘）

※11月28日の20周年記念祭に向かって、20日過ぎより昔からの生活機器・農具等の搬入を行います。その都度連絡しますので御協力をお願いします。

3. 来訪者の声

9月28日 宇部市東小羽町 石田浩子記

久しぶりにビオトープに来ました。大体、この時期に訪れるのですが、水車が廻っていないので去年は中止。8月1日から再び廻り始めたとの事で大変嬉しく思っています。維持管理が大変と思いますが、安らぎを求める人々のためにずっと水車が廻り続けることを願っています。又、来たいと思います。

4. 会員の声 【二俣瀬小学校 秋の環境学習会記】 (管 哲郎 記)

10月8日(木) 曇り～晴れ 9:30～11:30 16℃～22℃

二俣瀬ビオトープ内において二俣瀬小学校3年・4年生生徒14名、引率の先生3名を受け入れ、環境学習会(生物観察授業)を行いました。原田会長を通し、学校側より管が相談を受けたもので、今年3回目、秋の観察会となりました。

担任は玉井先生で、教頭先生ともう1人、3名の先生に来ていただきましたので、対応は管1名で十分でした。

台風14号の接近のせい、あいにくの曇りでしたが雨の心配はなさそうでしたので決行いたしました。気温も朝の間は低かったのですが次第に高くなり、昆虫たちも多く出てくるようになり、生徒たちも大忙しで網を振っていました。

東屋に帰り、各自の採集した昆虫を図鑑で調べました。前半は昆虫が少なく全体的に多くの昆虫は捕れなかったのですが、時間切れになり残念そうでした。

曇りの日は昆虫類の出現はよくありませんので、事前に採集しておいた微小昆虫と、実態顕微鏡、昆虫標本の一部を生徒に披露し、微小昆虫類を実体顕微鏡でのぞかせてあげました。小さな昆虫が大きくはっきり写る姿に、生徒たちは驚いていたようです。学校では理科の授業で顕微鏡を使い、植物の組織などを4年生は見ていたようですが、昆虫類は初めてのようでした。

事前の注意を忘れてしまい、半袖、半ズボンの生徒が半数おり、虫よけスプレーは使用したのですが、「カ」に刺される子や、植物の葉で手を少し切られた子もおりました。持参した薬ですぐに手当てしましたので何ともなかったのですが、先生も気が回らなかったようで、反省させていただきました。

担任の先生は、「これくらいはだいじょうぶです!」と言ってくれましたが、事前に注意することも必要なことだと思ったものです。これで、今年の「環境学習会」は終了です。



昆虫採集の様子



教頭先生も参加

5. 親子自然観察隊 「稲刈り」 (管 哲郎 記)

今年の稲刈りは「ウンカ」が県内に大発生し、当初の予定より1週間早く行いましたが、生育は十分のようでしたし、被害も2割程度で大事には至りませんでした。というのも、原田会長以下スタッフの皆さんの努力により、事前に「ウンカ」の防除を行ったためでした。

10月10日、9時過ぎより予定通り稲刈りを行いました。台風14号が接近し、雨や風が心配されましたが、うまい具合に北東方面に急旋回し、多少の風は吹きましたが雨もなく、暑くもなく、薄曇りの申し分ない稲刈り日和となりました。

地盤も程よく乾き、足元がよくて泥んこにもならず、あっという間に稲刈りを終えました。いつもなら多くの稲穂が足で踏みつけられ、かなりのお米が泥にまみれるのですが、今年はそれもなく落穂ひろいもしっかりできましたので、会長よりお褒めの言葉をいただき、120パーセントの出来栄えとのことでした。また、ノコ鎌でけがをする子供もおらず、事故なく稲刈りを終えました。

二俣瀬小学校の校長先生・教頭先生にも参加していただき恐縮でした。そのほか大勢のスタッフの皆様、ご苦労様でした。

・追記

新型コロナウイルスのためにいろいろな行事が大変やりにくくなっています。皆様にはいろいろとご心配をおかけし、申し訳なく思っていますが、隊長としてもやりにくいことは事実です。国の方針、医者意見の相違、など注意を払って気を付けているのですが、目に見えないウイルスが相手ではお手上げの状態です。今はせめて隊員や会員の皆様の中より患者が出ないことが唯一の安心材料です。

筆者も4月～10月まで1週間に4日は外出し昆虫調査を行っています。山口医大の主治医からも野山でのマスクは気にしなくてよいといわれ、週1回の定期検診に通っている歯医者先生からも、コンビニでは注意しなさいと言われていた程度で、3密は避けねばなりません。屋外での活動はある程度許されると思っています。

筆者の主観で皆様へ意見することはできませんが、要するに3密を避けることが基本であろうと考えます。ビオトープでの活動日では集合したときはマスク装着は必要と考えますが、活動は屋外ですので、マスクなしでの活動は許されるのではなかろうかと考えます。

“なにがなんでも「マスク持参」とされた以上はマスク着用しなければ・・・”とのお考えは別な意味になってしまいます、そこのところはご容赦いただきたいと思います。どうしてもマスクを外せない方はそれでよいと思われ、ビオトープのフィールドでは活動時はマスクなしでもご容赦いただきたいと思いますが・・・。

隊長を含め、作業時にマスクを着用されない会員やスタッフもいました、どうしても着用せねば危険でダメなら、そのように考えなければなりません。あえて反対するものではありません、観察会を中止すれば済むことです。



受付の様子



東屋に集合



稲刈りの方法を説明



ハゼかけ



稲刈りの様子



稲束づくり

親子自然観察隊の感想

★新谷（母）

稲刈り、去年初めて参加しましたが、今年子供たちも去年より上手になっていて成長を感じられました。コロナでなかなかイベントがないなか、こういう会を開いていただき、親子共々ありがたいです。記念祭も楽しみにしています(^-^)

★藤井七海

今は機械でも刈ることができるけど、手で刈るのは楽しかったです。去年よりうまく刈ることができました。

★藤井恵美

親子で稲刈りを楽しみにしていました。娘は自分が植えた稲が立派に実った姿を見て、とても嬉しそうでした。私も昨年より手早く束ねることができるようになりました。

★溝邊義人

鎌を使うのは怖かったけど、やり始めると楽しくてあっという間でした！もっと稲刈りしたかったです！

★溝邊睦

美味しいお餅ができるのがたのしみです♪

★溝邊（母）

今回の稲刈りは子供達がよく動いて頼もしかったです。田植えから稲刈りまでの間大切に育てていただき、楽しく稲刈りができました。今年も楽しい経験をありがとうございました^_^

★館野美來

初めて稲刈りをしました。初めは、鎌を使うのが怖かったので上手く出来なかったけど、どんどんやっていくうちに慣れて楽しくなってきました。また、やりたいです。

★阿部佳子

秋空の下 ビオトープでは実りの季節を 頭を垂れた稲穂が 出迎えてくれました。大勢の皆さんでの収穫作業は瞬間で はぜ掛けされた稲の束の風景は秋の風物詩ですね。また一年が巡り 実りの季節に感謝です。

★中本亜矢子

コロナ禍でも例年通りに稲は実り、みんなで楽しく稲刈りをしました。稲の束をワラで束ねるのは難しいのですが、皆さん手際よく束ねておられて関心しました。昔は少ない人数で10日間位かけて稲刈りをしていたとのことで、そのご苦勞が偲ばれます。この体験を通して子どもたちに収穫の喜びを感じてもらえたらうれしいです。

★金子玲子

稲の刈り取りからハゼ掛けまでがあっという間に感じられました。皆で協力して一つのことに取り組むことは、とても気持ちの良いことだと改めて思いました。コロナが心配される中、また暑い夏の間、田んぼの管理をしてくださった方々にお礼を申し上げます。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （管 哲郎 記）

(56) シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringi* (ゲンゴロウ科)

13 mm前後の中型ゲンゴロウです。黒い体の両側に黄色い縦じまが2本ずつ入り、首の付近に目のような二つの班紋がありとても目立ちきれいな人気の高い水生甲虫です。

一般にゲンゴロウは水中生活に適した楕円形や卵型をしており、水の抵抗を少なく抑えた流線型をしています。幼虫や成虫共に肉食性で、小魚や他の水生昆虫類、オタマジャクシなどを捕食します。幼虫にかまれるとタンパク質消化酵素を出すので痛くて危険です、かまれないように注意しましょう。水草の多い植生豊かな池や休耕地の水溜まりなどに生息しますが、条件の良い生息地が減少するとともに数を減らしているようです。



シマゲンゴロウ



幼虫、ミミズを捕食

引用・参考文献

福田晴夫ほか、2005. 昆虫図鑑 採集と標本の作り方. pp. (株) 南方新社. 鹿児島.
海野和男、2013. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑. 254pp. 誠文堂新光社. 東京.

7. 会よりの連絡事項

- 1) 20周年記念祭で林元会員の古林館での見学が出来なくなりましたが、保管している展示品はお借りすることが出来るようになりました。早めに搬出し倉庫に保管します。
- 2) 同じく20周年記念祭でオープニングセレモニーとして二俣瀬小学校5・6年生の太鼓が演じられることに決定しました。それによる小学校との打ち合わせを20日に行いましたので次回11月1日の活動日に説明いたします。

8. 編集後記 （原谷 一誠 記）

11月には、創立20周年記念イベントが実施されます。20年前の創立時には、募集されたボランティアの熱い協議がなされて、ビオトープが作られていき、少しずつですが維持管理に加えて改良点も見つかり、現在に至っています。だから私たちの会も「つくる会」という名前のままで、新しいビオトープの形を創設するというイメージを抱いています。会が高齢化に伴い維持活動も難しい面もあり、多くの若い方に加わっていただき、来訪者に喜ばれる形のビオトープにして行きたいと願っています。